

障がい児部会 報告書

会議名	第2回 障がい児部会		
開催日時	令和6年2月8日(木) 10時~12時		
開催場所	板橋区役所 北館9階 大会議室B		
出席者数	11名(代理1名、欠席1名)	傍聴者数	3名

報告事項(2件)

議題名	部会員の障がい児に係る取組と課題の共有
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・部会員の障がい児に係る取組と課題の一覧表について、令和5年度第1回時点で記載が無かった部会員の取組と課題を追記した。 ・部会員同士の気づきや多様な視点からの意見を引き出し、連携を深めるツールとしていきたい。
主な意見・回答	<ul style="list-style-type: none"> ・取組内容等が端的で良い。課題が空欄になっている部分は何らか理由があるのか。 →新規事業で、今後、課題が出てくる取組もある。内容に変更があれば修正・追記いただくよう、部会が開かれる前などに事務局から案内しながら更新していく。

議題名	医療的ケアに関する事業の進捗
概要	医療的ケアに関する事業について、板橋区障がい者計画2023に掲げる事業をもとに報告する。
主な意見・回答	<p>■医療的ケア児等コーディネーターの配置 ■重症心身障がい・医療的ケア児等会議の運営</p> <p>重症心身障がい・医療的ケア児等会議を12月18日に実施し、医療的ケア児コーディネーターの今後の方向性を検討した。現在、区内のコーディネーター資格取得者は9名おり、今年度、都の養成研修に区から3名推薦した。合計12名になる予定で、相談支援事業所の職員が多い。他区のコーディネーターの配置状況などを確認しているが、板橋区は、直営ではなく委託で進めていく方向性で考えている。</p> <p>■医療的ケア児の受け入れ環境の検討・整備(保育園・幼稚園)</p> <p>区立保育園では、令和3年度から2園で受入を開始し、令和5年度は3名(たん吸引・経管栄養・導尿、各1名)を受け入れている。受入を進めたことで、主な3種類のケアだけでなく、インスリン注射のケアも必要となったため、ガイドラインを見直した。需要が高まっていくことを鑑み、令和6年度は3園増やし、計5園に拡大して受入環境を整備していく。</p> <p>■医療的ケア児の受け入れ環境の検討・整備(小・中学校)</p> <p>学校で対象としているケアは、喀痰吸引・経管栄養・導尿・インスリン注射。令和5年度は3名受け入れている。令和6年度は1名を受入予定。また、年度当初に、緊急時対応等の看護師によるフォローを1名に対し、実施予定。</p>

協議事項(1件)

議題名	障がい児支援における縦横連携の強化
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな試みとして、縦横連携の強化を目的に、意見を出しやすい環境づくりとしてグループを分け、かつ、具体的なテーマを題材にディスカッションする。 ・今回は就学前と就学後のグループで行うが、この取組が良ければ、グループメンバーの構成やテーマを変え、今後の部会でも継続して取り組んでいきたい。
主な意見	<p>【就学前グループ】 テーマ「保護者へのアプローチの難しさ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期に、療育の必要性を支援者が感じた場合、どのように家族へ伝え、理解を促していけるかについて話し合った。 ・0歳から利用できる児童館では、保護者自身が他の子どもに接することで、自分の子どもについて気づくことがあったり、ほっとプログラムでは児童館職員と臨床心理士による座談会で育児の情報交換や相談を受けている。また、子育て相談プログラムでは、離乳食や入浴などの育児相談会を行い、サポートが必要なお子さんには保健師と連携して個別ケースで対応することもある。 ・健康福祉センターで行っている1歳児健診の健診率はとても高いが、もし繋がりが途切れてしまった場合は、無理に繋がりを作るのではなく、予防接種の促しなど別の手法でアプローチしている。 ・例えば、ある一人の子に対し、「2回伝えないと理解できない」という見方をする支援機関もあれば、「2回伝えれば理解できる」という見方をする支援機関がある。そのため、児童発達支援事業所では、お子さん自身に課題があるという見方だけでなく、環境によってお子さん、または保護者の捉え方が変わるということ、保護者の方に伝えることがある。そのうえで、児童発達支援を利用するかどうか改めて考えるきっかけを作ることもしている。 ・保育園では、配慮が必要なお子さんが入園する際、職員の加配をして要支援認定する。しかし、入園後に加配をしてほしいと相談されることもあり、加配することが保育園に入りづらくなると思われることが課題である。 ・グループ討議を通して、児童館、健康福祉センター、保育園は連携体制が取れていることを実感した。相談支援や児童発達支援も含め、地域連携を引き続き継続していきたい。 <p>【就学後グループ】 テーマ「サポートファイルの効果的な利用」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サポートファイルの運用が始まったが、現場の支援者の認知度が低い、さらなる周知が必要。幼児期からの周知が大切。 ・子どもの障がいを保護者が受け入れていないと活用できないという課題がある。 ・それぞれの支援機関が管理する様式をサポートファイルに寄せて、利用を促すという案が出た。 ・例えば、あいキッズの要支援会議でサポートファイルを周知することや、相談支援事業所が出向き、計画相談支援の制度説明などができないかという意見があった。 ・ファイルの名称について、“サポート”という言葉がレッテルを貼られてしまうような印象があるため、親しみあるネーミングがあっても良いのではという意見があった。 ・初めて書く場合、サポートファイルをどう書いていいかわからない方も多いと思う。既に使っている方の内容を用いて記入例を作成したり、みんなで書く会などがあったりしても良い。